

## レポート既読管理システム導入後における病理レポートの既読状況と今後の課題

◎原 稔晶<sup>1)</sup>、小林 晴美<sup>1)</sup>、佐藤 浩司<sup>1)</sup>、加藤 克幸<sup>1)</sup>、安藤 善孝<sup>1)</sup>  
国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

【はじめに】昨今、病理レポートや画像診断レポートの放置による医療ミスが問題となっている。日本医療機能評価機構は医療安全情報として2012年に病理レポートの確認忘れによる治療遅延に至った事例を報告し注意喚起した。しかし、その後も類似の事例が35件発生していることが2019年5月の医療安全情報で報告された。

当院では2018年1月より病院情報システムが更新され、それに伴いレポート既読管理システムが導入され、一定期間経過した未読レポートのお知らせや未読レポート一覧を表示する機能などが付与された。

そこでシステム更新して1年以上経過した現在の病理レポート既読状況を調査した。

【レポート既読管理システム】依頼医または依頼医と同一診療科の医師がレポートを開き、手で未読から既読に切り替えることで既読状態と記録される。

未読状態のまま1週間以上経過すると、依頼医が電子カルテにログインするたびにメッセージが表示される。また全ての医療従事者が閲覧可能な患者単位の検査結果一覧画面でレポートが未読状態であることがマークで識別できる仕様となっている。

未読レポート一覧のリスト表示および報告日や依頼科などの検索機能を持つ。またリストからクリックのみで実際のレポートを展開可能である。

【方法】レポート既読管理システムの未読レポート一覧より2018年1月1日から2019年2月28日報告済みの組織診および細胞診レポートの既読状況を調査した（調査日：2019年5月31日）。また未読のレポートで結果が悪

性のケースについては電子カルテの医師記録に病理診断結果に関する記載があるかどうかを確認した。

【結果】未読状態で1年以上：組織診33件・細胞診9件、半年以上1年未満：組織診46件・細胞診7件、3ヶ月以上半年未満：組織診16件・細胞診4件のレポートが存在した。未読レポートの中で結果が悪性のものに関しては結果報告後2週間以内に医師記録に病理診断についての記載があった。

【まとめ】レポート既読管理システム導入以前は組織診レポートのみで半年以上1年未満未読状態のものが100件以上あったことを示すデータがあり、数字的に見ればレポート既読管理システム導入は有用であったと考えられる。しかし、検査が依頼されて保険点数を算定している以上全ての検査結果が閲覧され、患者側に結果が伝えられるべきである。そのためにもまずレポートの未読件数を如何にゼロに近づけるかが課題となる。現状ではシステムのみで全症例を既読状態にするには限界があるため、依頼医への電話連絡や診療科への通知が必要となる。しかし人が介入すると確認忘れや手間がかかるため更なるシステムの改善を期待したい。

またレポートが既読状態になったとしても転勤や依頼医と主治医が異なる場合などもあり、申し送り不足で治療が遅延する可能性もある。これらの点も踏まえて病院全体で考えていくべき問題であると考ええる。

連絡先：名古屋大学医学部附属病院 病理部

052-744-2582 (直通)